

流域治水部会からの報告

令和7年5月21日
国土交通省 中国地方整備局
岡山河川事務所

令和6年度の流域治水に係る取組

令和6年度の流域治水に係る取組の振返り

- 令和6年度、岡山三川では流域治水に係る取組として、①協議会、②現地見学会、③高梁川水系シンポジウム、④流域治水に係る勉強会を実施。

①協議会:関係機関の代表が集まり意見交換



③高梁川水系シンポジウム:住民に向けた流域治水の周知



②現地見学会:岡山三川における実施状況を見学



④流域治水に係る勉強会:取組促進のための情報提供

【テーマ2】取組の実効性向上:「田んぼダム」の取組効果の検討ツールの紹介

- 「田んぼダム」の取組効果を簡単に計算できるツールが公開されている。
- 四角堰を利用した田んぼダム効果の評価例を以下に示す。

0. 計算概要

- 田んぼ、降雨、調整板の諸元を用いて、タイムステップごとの田んぼ一筆からの流出量を計算

例) 四角堰方式を利用した田んぼダムの効果検証

1. 田んぼの諸元入力

- 水田面積、畦畔高さ=0.3m
- 初期水深=0.03m、減水深=5.0mm/1日
- 落水斜の傾斜、幅

2. 降雨データの入力

- 対象としたい降雨を任意に設定可能

3. 調整板の諸元入力

- 切欠幅、畦畔高さ、流量係数=0.6

$$Q = C \frac{2}{3} \sqrt{2g} B h^{3/2}$$

Q: 流出量(m³/s) C: 流量係数 g: 重力加速度(9.8m/s²) B: 堰幅(m) h: 越流水深(m)

※値はすべて一般値を示す
減水深: 高水期と低水期等により1日で低下する水深

■出力結果

水田からの流出量
田んぼ(約)からの流出
初期値を評価
→田んぼダム効果

田んぼの水深変化詳細
→田んぼの安全性評価等

出典: 水田流出簡易計算プログラム操作マニュアル(令和5)
https://www.maff.go.jp/j/nouin/miku/kura/keigosei/ryuubi_toukei.html

●平成30年7月豪雨から5年が経過し、気候変動による水害の激甚化・頻発化に備えるため、高梁川流域の関係機関が集まり、高梁川流域の河川、流域、地域の特性を踏まえて、“重点的”また、“横断的”に取り組むべき内容について意見交換を実施。

●流域のあらゆる関係者が連携して取り組む流域治水を推進し、地域の発展と安全の向上を目指す。

【開催概要】

■日時：令和6年5月20日(月)
15:00～16:30

■場所：コンパックス岡山 2階 国際会議場



■出席機関：16機関



会議の様子

■岡山河川事務所 垣原事務所長

●流域治水をより一層推進するためには、**河川、流域、地域の特性を踏まえて取組を進める**ことが重要である。

●委員の皆様には流域治水の取り組みを先導する役割を担っていただきたい。



【意見交換】

●毎年実施しているアンケート調査から、防災意識の低下を懸念している。

●**防災訓練**や**防災意識の啓発**に関する取り組みを実施し、**防災意識の向上**に努める。



新見市長

●ARゴーグルを活用した**災害の疑似体験**を通じて、**災害を忘れない学習**に繋げている。

●**災害に対する日頃からの備えが重要**と考えるため、引き続き取組を進める。



高梁市長

●**高梁川の水位低下と内水排水ポンプの設置**により、住民が安心感を感じている。

●昨年度は15の小学校で**防災訓練**を実施した。引き続き、**訓練による防災意識の啓発**に取り組む。



総社市長

●ハード対策及び流域治水対策には、災害後、特に力を入れている。

●**農業用水路の事前排水**や**田んぼダムの普及促進**に向けて、**農業者の協力が必要**であるため、連携を図る取り組みにも努めたい。



倉敷市長

●**防災デイキャンプ**を通じて、子供たちが楽しみながら**防災意識を高める**ことができた。

●子供たちが**家庭でも防災の話**をし、**家庭や地域の防災意識の向上**にも期待している。



早島町長

●市の**特徴**として、**ため池が多い**ことから、**ため池の適切な維持管理**に努めている。

●被害軽減のために、**迅速かつ適切な情報提供**に取り組んでいる。



浅口市長

●平成30年7月豪雨から5年が経過し、気候変動による水害の激甚化・頻発化に備えるため、旭川流域の関係機関が集まり、旭川流域の河川、流域、地域の特性を踏まえて、“重点的”また、“横断的”に取り組むべき内容について意見交換を実施。

●流域のあらゆる関係者が連携して取り組む流域治水を推進し、地域の発展と安全の向上を目指す。

【開催概要】

■日時：令和6年8月5日(月)
14:00～15:40

■場所：ピュアリティまきび 千鳥の間

■出席機関：23機関



会議の様子

■岡山河川事務所 垣原事務所長

- 流域治水をより一層推進するためには、**流域特性を把握し、流域全体の関係者が協力し進めることが重要である。**
- 協議会として流域治水の取り組みを先導して進めるために、流域治水の進め方についてご意見を頂きたい。

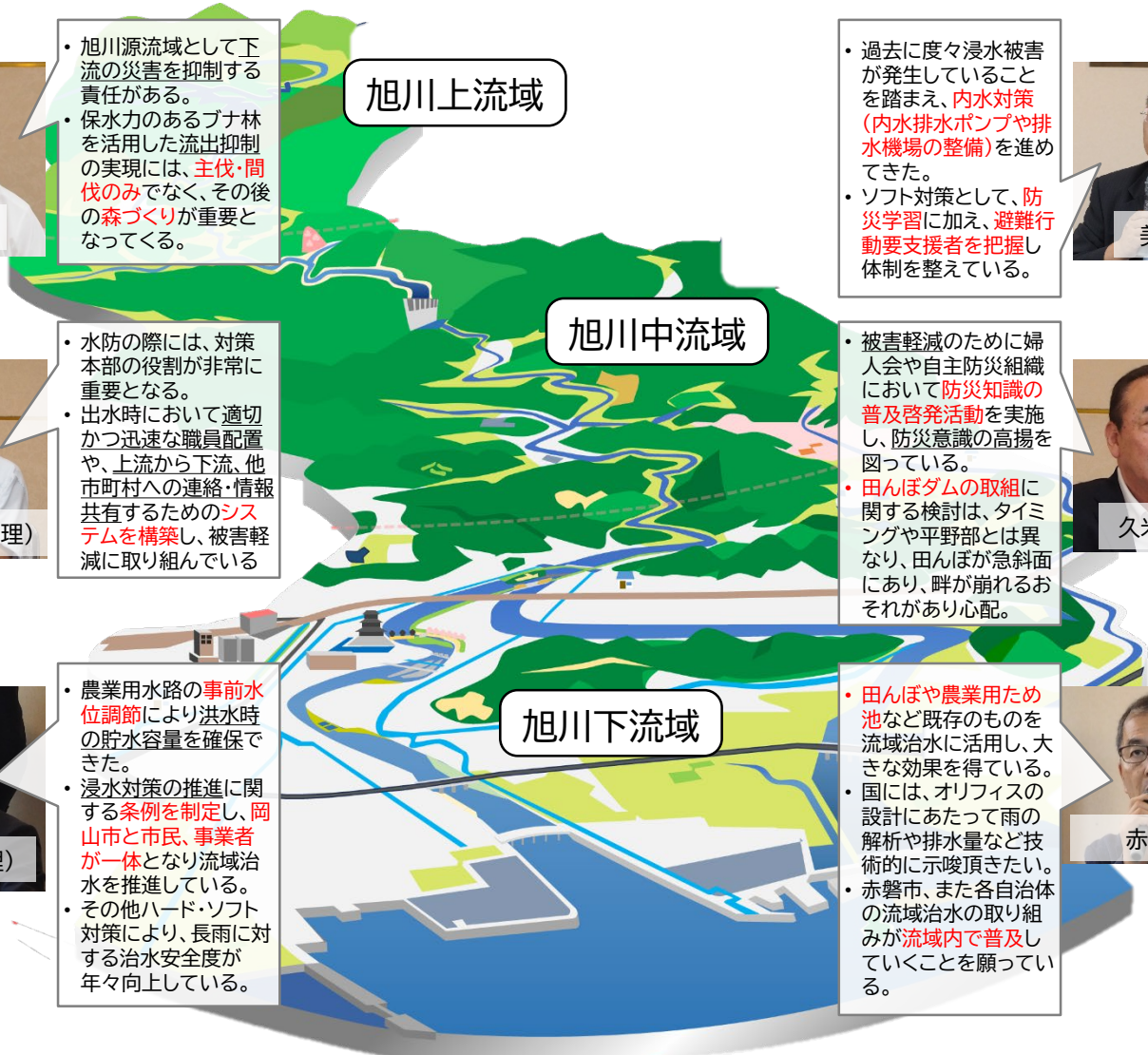


■岡山県土木部 西澤部長

- 市町・県・国ともに、平成30年7月豪雨のような被害を繰り返したくないという共通の思いがある。
- 水害の更なる激甚化・頻発化に備えて、各地域での有効な対策については、国・県で連携して進めていきたい。



【意見交換】



旭川上流域

- 旭川源流域として下流の災害を抑制する責任がある。
- 保水力のあるブナ林を活用した流出抑制の実現には、**主伐・間伐のみ**でなく、その後の**森づくり**が重要となってくる。



新庄村長

旭川中流域

- 水防の際には、対策本部の役割が非常に重要となる。
- 出水時において適切かつ迅速な職員配置や、上流から下流、他市町村への連絡・情報共有するための**システムを構築**し、被害軽減に取り組んでいる



吉備中央町長(代理)

旭川下流域

- 農業用水路の**事前水位調節**により洪水時の貯水容量を確保できた。
- 浸水対策の推進に関する**条例を制定**し、**岡山市と市民、事業者が一体**となり流域治水を推進している。
- その他ハード・ソフト対策により、長雨に対する治水安全度が年々向上している。



岡山市長(代理)

旭川上流域

- 過去に度々浸水被害が発生していることを踏まえ、**内水対策(内水排水ポンプや排水機場の整備)**を進めてきた。
- ソフト対策として、**防災学習**に加え、**避難行動要支援者を把握**し体制を整えている。



美咲町長

旭川中流域

- 被害軽減のために婦人会や自主防災組織において**防災知識の普及啓発活動**を実施し、防災意識の高揚を図っている。
- 田んぼダムの取組**に関する検討は、タイミングや平野部とは異なり、田んぼが急斜面にあり、畔が崩れるおそれがあり心配。



久米南町長

旭川下流域

- 田んぼや農業用ため池**など既存のものを流域治水に活用し、大きな効果を得ている。
- 国には、オフィスの設計にあたって雨の解析や排水量など技術的に示唆頂きたい。
- 赤磐市、また各自治体の流域治水の取り組みが**流域内で普及**していくことを願っている。



赤磐市長

●平成30年7月豪雨から5年が経過し、気候変動による水害の激甚化・頻発化に備えるため、吉井川流域の関係機関が集まり、吉井川流域の河川、流域、地域の特性を踏まえて、“重点的”また、“横断的”に取り組むべき内容について意見交換を実施。

●流域のあらゆる関係者が連携して取り組む流域治水を推進し、地域の発展と安全の向上を目指す。

【開催概要】

■日時：令和6年8月5日(月)
14:00～15:40

■場所：ピュアリティまきび 千鳥の間

■出席機関：23機関



会議の様子

■岡山河川事務所 垣原事務所長

- 流域治水をより一層推進するためには、**流域特性を把握し、流域全体の関係者が協力し進める**ことが重要である。
- 協議会として流域治水の取り組みを先導して進めるために、流域治水の進め方についてご意見を頂きたい。



■岡山県土木部 西澤部長

- 市町・県・国ともに、平成30年7月豪雨のような被害を繰り返したくないという共通の思いがある。
- 水害の更なる激甚化・頻発化に備えて、各地域での有効な対策については、国・県で連携して進めていきたい。



【意見交換】



吉井川上流域

- 子供のころから防災に関心を持ってもらうために**防災教育**に取り組んでいる。さらに**非常持ち出し袋**の配布により防災意識を高め、**自助・共助の取り組み**を推進している。



鏡野町長

吉井川中流域

- 苫田ダム運用以降、外水による浸水リスク大きく減少。一方で内水被害に対しては**ポンプ整備**に加え、市街地では**立地適正化計画**を検討しているが、工夫が必要。
- 森林や農地を活用した効果的な流出抑制**について検討していく。



津山市長(代理)

吉井川下流域

- 平成30年7豪雨を受け、機動性のある**排水ポンプ車**を2台配備した。出水時に備えて消防団による**点検・整備**と**排水訓練**を着実に進めていく。



和気町長

- 内水排水ポンプ**の更新に取り組んだ。
- 都市計画マスタープランの策定と併せて立地適正化計画を含めた**土地利用規制**を検討中。市民や都市開発者の理解を得ていくことが課題。



瀬戸内市長

出水時における災害リスク早期把握ため河川監視設備を整備した。オープンデータ化により防災活動に生かしていく。

- 人工林の整備や天然林化により保水力の向上**に取り組む。



西栗倉村長

- 小型ショベル**を活用した**災害対応訓練**を実施し、災害対応力の向上に取り組んでいる。
- 転作により田んぼの確保が困難、また地震対策で未使用ため池は廃止という流れがあるので、治水にも協力していきたい。



奈義町長

- 地区ごとに**自主防災組織**を立ち上げ、**要避難者の把握、適切な避難行動**により人命の安全確保に取り組んでいる。
- 耕作放棄地等を有効活用した内水対策**に取り組む。



勝央町長

- ワンコイン浸水センサの実証実験**に参加し、浸水多発地域と、上流の防災拠点ため池に設置。
- 取得したデータと雨量データから避難情報の早期提供を実現し、避難困難者を減らす検討をしている。



備前市長(代理)

②現地見学会:岡山三川における実施状況を見学

- 流域治水に関わる行政担当者の理解を深め、流域治水の更なる推進を図るため、令和6年9月30日(月)に赤磐市内と岡山市内、令和6年10月3日(木)に倉敷市内で現場見学会を開催しました。
- 赤磐市は「田んぼダム」と「ため池」、岡山市は「貯留施設(ハレノワと北長瀬運動公園)」、倉敷市は「止水壁(倉敷中央病院)」と「防災施設(柳井原防災ステーション)」「柳井原排水機場」、「樹林化抑制現場(小田川河川敷)」、「防災公園(まびふれあい公園)」の現場で関係者から取り組みについて説明を受け、流域治水への理解を深めました。



田んぼダム(赤磐市)



ため池(赤磐市)



貯留施設(ハレノワ)

9月30日の現場



止水壁(倉敷中央病院)



柳井原排水機場

10月3日の現場



樹林化抑制現場(小田川河川敷)



防災公園(まびふれあい公園)

9月30日(月)は10機関24名
(岡山市、玉野市、総社市、高梁市、備前市、瀬戸内市、赤磐市、浅口市、福山市、環境省中国四国地方環境事務所)
10月3日(木)は9機関18名
(岡山市、倉敷市、総社市、真庭市、浅口市、早島町、福山市、環境省中国四国地方環境事務所、岡山地方気象台)
の方が参加されました。

③高梁川水系シンポジウム:住民に向けた流域治水の周知

- 令和6年10月20日(日)、倉敷市民会館にて「高梁川流域治水シンポジウム」を開催(参加者約200名)。
- シンポジウムでは、建築家隈研吾氏による海外(中国)からの中継による特別講演、岡山河川事務所長から流域治水、河川事業の取組報告後、「流域治水の取り組みと高梁川流域の将来に向けて」をテーマにパネルディスカッションを実施。

開会挨拶



シンポジウム開催都市の市長、高梁川流域連盟の会長である伊東倉敷市長による開会挨拶

特別講演(WEB出演)



「まびふれあい公園」を設計した隈研吾氏による「川と建築」をテーマとした特別講演

パネルディスカッション



コーディネーター
岡山大学学術研究院 西山教授

気候変動による流域治水対策の必要性和、災害に強いまちを実現するための今後の方策をとりまとめて頂いた。

司会



中島アナウンサー(テレビせとうち)

流域治水の取材経験を踏まえ、分かりやすく進行。

流域治水、河川事業の取組報告



高梁川流域において重点的に取り組む流域治水対策の説明(垣原事務所長)



事務所職員による浸水体験VRを用いた完成後の小田川合流点付替え事業の説明

パネリスト

 株式会社EnPal 金藤 純子 様 倉敷市真備町における知らないでは済まされない水害を説明。	 岡山河川事務所長 垣原 清次 今後、高梁川流域で進んで欲しい流域治水対策を説明。	 元真備船穂商工会 堀口 真伍 様 サイクリングロード設定等による復興に向けた取組を説明。	 倉敷中央病院 藤本 義秋 様 倉敷中央病院における自主的な流域治水対策の取組を紹介。	 箭田地区まちづくり推進協議会 守屋 美雪 様 子供たちへの防災教育、住民による樹林化抑制等の取組を紹介。
--	---	---	---	---

③高梁川水系シンポジウム:住民に向けた流域治水の周知

- 後半は、高梁川流域治水大使の任命後、大使と事務所職員による流域治水模型の実演と田んぼダム、利水ダムの事前放流等の流域治水の取組紹介を行うとともに、今年度実施した高梁川流域ポスターコンクールの優秀作品を表彰。
- 参加者から「流域治水を考えるきっかけとなった」などの感想を頂いており、「流域治水」への理解増進が期待される。

高梁川流域治水大使任命式



倉敷ケーブルテレビの森アナウンサーに高梁川流域治水大使の任命書を授与させて頂くとともに、高梁川流域治水大使による今後の普及・広報活動への意気込みを宣言して頂いた。

高梁川流域治水ポスターコンクール表彰式



優秀作品への表彰を行った後、特別ゲスト倉敷小町から受賞者の皆様にポスターへの想いについてインタビューを実施。

流域治水模型の実演と流域治水の取組紹介



流域治水大使と事務所職員による流域治水模型を用いた実演状況。

併設展示

浸水体験VR



流域治水模型(倉敷市)



ポスター優秀作品展示



倉敷市職員による田んぼダム堰版の説明。



倉敷市職員による貯留施設整備の説明。



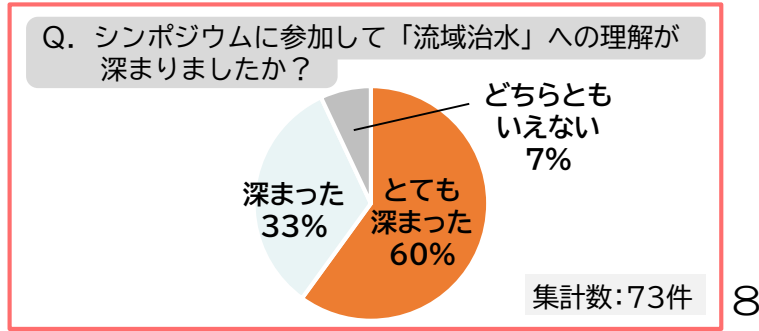
岡山県職員によるダム事前放流の説明。



参加者アンケート



フィナーレ



④第1・2回勉強会の振返り:流域治水の取組に係る検討、実践に関する現状

- 第1回勉強会(12月25日)ではアンケート調査結果に基づき、流域治水の取組の現状と課題を4つの観点から整理し、具体的な内容について意見交換を実施。
- 第2回勉強会(1月22～24日)では、それぞれの課題に対して参考となる情報を共有、意見交換を実施。

【体制】(アンケート:Q1～6)

あるべき姿	現状	課題
関係部局で連携し、計画的に、意欲をもって取り組むために、多様な部局、関係者が参画し情報提供、意見交換および引継ぎを定期的に実施している。	- 大半の機関が単一部局(ほとんどが土木部局)により取組を実施 - 定期的な情報共有、意見交換および引継ぎを実施している機関は3割以下	連携して取り組んでいる事例や連携するために工夫していること等を共有し、関係部局同士が連携する仕組みづくりが必要である。

➤ 複数部局で取り組んでいる機関もあるが、情報共有や意見交換の実施が出水期前後に限られるなど、複数部局が日ごろから連携して計画的に取り組めている機関は少ない。



関係部局同士が連携する仕組みづくりに活用

第2回勉強会

【部局間の連携強化】(テーマ1)

紹介内容	意見交換を踏まえた振返り
- 各機関の取組内容毎に想定される担当部局の整理一覧 「岡山市浸水対策基本計画2019」、「倉敷市総合浸水対策基本計画」 - 定期的な議論を実施するための年間スケジュール案	- 取組内容と担当部局を整理することで、部局間の連携強化のみならず、関係機関の間での連携にも有効であるといった意見が寄せられた。 - 計画を作成している機関では、取組内容と担当部局を整理し部局間の連携強化につなげている。 - 他機関でも同様に計画的な取組実行が有効である。 - いつ・誰と・どんな内容について議論すべきかを整理することが有効であると考えられる。

④第1・2回勉強会の振返り：流域治水の取組に係る検討、実践に関する現状

第1回勉強会

【取組効果の評価・分析】（アンケート：Q7～12）

あるべき姿	現状	課題
取組の必要性や目的を明確にし、取組の実効性を高めるために、 <u>取組効果・有効性を確認・評価</u> している。	9割程度の機関が取組効果の評価・分析したことがない - その理由は、そもそも評価・分析をどのような手段で実施するかわからないため	各種マニュアルの周知や解説、さらに先行的に評価・分析を実施している事例を共有し、取組効果・有効性を確認する <u>方法を知り、理解</u> する必要がある。

- 一部の機関では、シミュレーションの実施等により取組の事前・事後評価が実施されているが、定量的な評価により取組の効果・有効性を検討している機関は少ない。



取組の効果・有効性を確認する方法を理解し実践するのに活用

第2回勉強会

【取組の実効性向上】（テーマ2）

紹介内容	意見交換を踏まえた振返り
- 取組内容毎の技術支援に係る基準書類一覧 - 取組効果の評価・分析方法の紹介 ➤ 「田んぼダム」に関する基準書と評価方法 ➤ 「ため池貯留」に関する基準書と評価方法	- 一部の機関では、各機関の取組項目に関して、技術基準書や事例集などを確認しているが、<u>関連事業等は把握できていない状態である。</u>⇒関連事業の活用事例等の整理・紹介する。 - 紹介した取組効果の評価方法を活用することで、岡山県内の数ある田んぼ・ため池の中から、より実効性の高い箇所的一次選定等に有効であると考えられる。 - 一部の機関では、紹介した評価方法を用いた住民説明等を実施しているが、<u>取組推進には至っていないため、より具体的な取組効果の評価や結果の示し方の工夫</u>を共有してほしいといった意見が寄せられた。⇒事例を整理・紹介する。

④第1・2回勉強会の振り返り：流域治水の取組に係る検討、実践に関する現状

第1回勉強会

【住民や企業が流域治水を実践するために現在実施している働きかけ】（アンケート：Q13）

あるべき姿	現状	課題
流域のあらゆる関係者とともに流域治水に取り組むために、住民や企業へあらゆる方法・手段で積極的に働きかけ、広く普及し、周知している。	4割程度の機関が1種類の内容の働きかけのみ実施 - 働きかけを実施していない機関が1割以上 - 全域等を対象とした幅広い周知や、地域防災活動の働きかけを実施 - 技術・財政面の支援制度の周知は未実施	先行的に実施している機関の取組事例や取組効果を共有し、 住民や企業への働きかけ方を支援 する必要がある。

➤ ソフト対策に関して、まず住民や企業に流域治水を知ってもらうための広報活動を十分に実施できている機関は少ない。



住民や企業への働きかけ方の支援として活用。

第2回勉強会

【あらゆる関係者が取組むための周知・広報に関する取組事例】（テーマ3）

紹介内容	意見交換を踏まえた振り返り
- あらゆる関係者による流域治水の取組の必要性 - 住民や企業に「流域治水」を知ってもらうための広報活動に関する取組事例 ➤ 地元新聞の活用事例 ➤ 地元ラジオ番組の活用事例 ➤ 地域のイベントの活用事例 ➤ シンポジウムの開催	- 流域に関わるあらゆる関係者（国・都道府県・市町村・企業・住民等）が取組むことにより、施策や手段の充実、それら組み合わせによる効果的・効率的な取組につながることが期待される。 - 流域治水に関する広報を実施している機関は少ないため、まずは地域住民が集まる場などを活用して、流域治水を知ってもらうための活動が必要である。 - そのための手段として模型や浸水体験VRを貸し出しするなど、流域内でも協力していくことが有効であると考えられる。

④第1・2回勉強会の振返り：流域治水に関して、今後、優先的に取り組む内容

第1回勉強会

【今後実施したい取組】（アンケート：Q14～15）

あるべき姿	現状	課題
流域治水の取組をより効果的に推進するために、今後優先的に取り組むための必要性和目的を把握している。	- 過去の洪水や水害リスク情報により、水害リスクがあることを理解している - 取組によって被害防止・軽減の効果があることを理解している	取組事例、取組効果を共有し、取組を実践するための支援が必要である。

➤ 取組の効果や有効性を把握できていないため、取組の実践に結びついていない機関が多い。



取組の効果・有効性を確認する方法を理解し実践するのに活用（＝テーマ2と同じ）

第2回勉強会（再掲）

【取組の実効性向上】（テーマ2）

紹介内容	意見交換を踏まえた振返り
- 取組内容毎の技術支援に係る基準書類一覧 - 取組効果の評価・分析方法の紹介 ➤ 「田んぼダム」に関する基準書と評価方法 ➤ 「ため池貯留」に関する基準書と評価方法	- 一部の機関では、各機関の取組項目に関して、技術基準書や事例集などを確認しているが、関連事業等は把握できていない状態である。⇒関連事業の活用事例等の整理・紹介する。 - 紹介した取組効果の評価方法を活用することで、岡山県内の数ある田んぼ・ため池の中から、より実効性の高い箇所的一次選定等に有効であると考えられる。 - 一部の機関では、紹介した評価方法を用いた住民説明等を実施しているが、取組推進には至っていないため、より具体的な取組効果の評価や結果の示し方の工夫を共有してほしいといった意見が寄せられた。⇒事例を整理・紹介する。

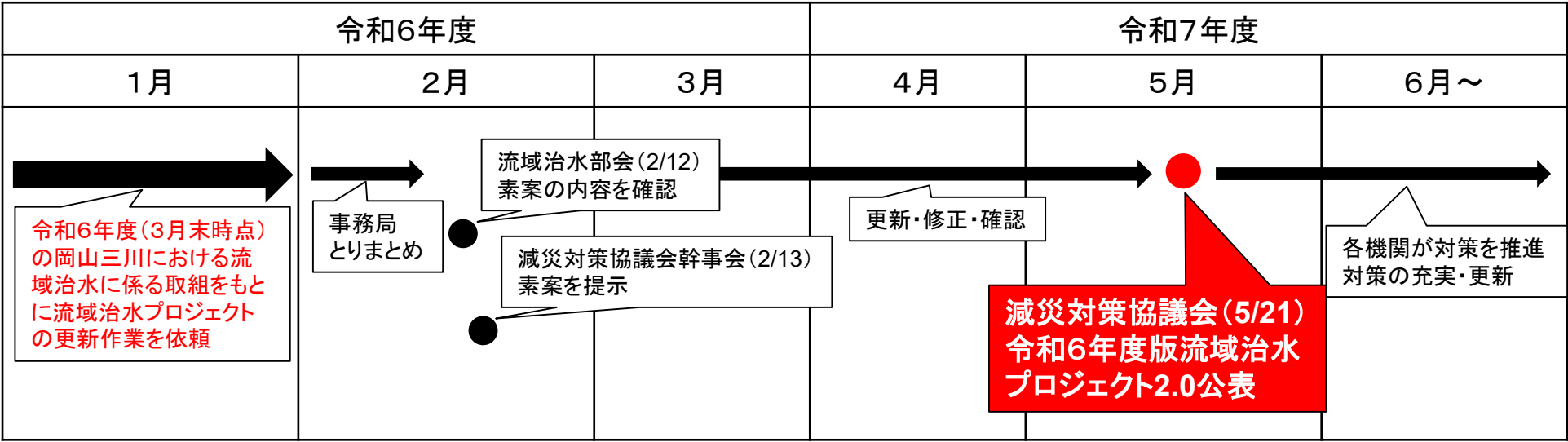
令和6年度版 流域治水プロジェクト2.0

<流域治水プロジェクトの経緯>

- R3.3.30 令和2年度版 流域治水プロジェクト公表
- R4.3.31 令和3年度版 流域治水プロジェクト公表
- R4.7.28 令和3年度版 流域治水プロジェクト更新
- R5.3.31 令和4年度版 流域治水プロジェクト公表
- R6.3.29 令和5年度版 流域治水プロジェクト2.0公表

※流域治水プロジェクト2.0
気候変動の影響により当面の目標としている治水安全度が目減りすることを踏まえ、流域治水の取組を加速化・深化させるため、必要な取組を反映して更新。

<令和6年度版 流域治水プロジェクト2.0について>



流域治水の具体的な取組 ～R6年度実施した取組・完了・新たに追加した取組～

実施した取組・・・過年度から取組を継続的に実施 / 取組概要資料において、取組実施状況等に更新があった取組(ex.R6年度の取組実績数や内容の更新など)
完了した取組・・・R6年度をもって取組が完了したと記載のあった取組
新たに追加した取組・・・過年度まで実施していなかった取組を新たに実施 / R6年度の更新において新たに取組概要資料を作成した取組

氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策

R6年度に**実施**・**完了**・**新たに追加**した取組

吉井川水系

■ 雨水貯留タンク設置に対する助成制度【岡山市】

・H29年度より継続的に実施しており、申請件数が**26件(R5)⇒43件(R6)**へ増加

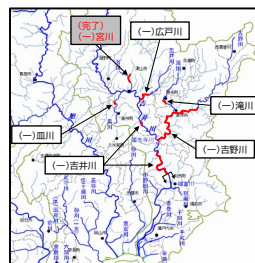


■ 可搬式排水ポンプの整備【美作市】

・R1年度より吉野川流域を中心に本庁、支所等へ16台配備
 ・受講者の誰でもポンプを動かせるような訓練内容で実施
 ・消防本部だけでなく利用場所を想定した訓練も実施



■ 大雨が予想される場合の用水路水位の事前調整【瀬戸内市】



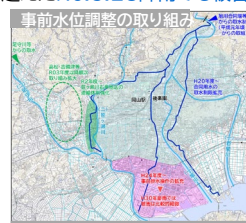
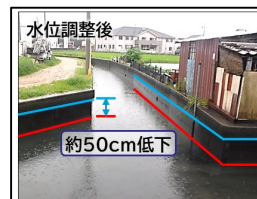
■ 河川改修【岡山県・岡山市】

・岡山県：R2より実施していた宮川における整備(河道拡幅、河道掘削 3.2km)が完了
 ・岡山市：R5～R21で永江川における河川整備を実施予定

旭川水系

■ 既存農業用水路の事前水位調整による治水安全度の向上【岡山市】

・H20年度頃から事前水位調整を実施しており、長雨に対する治水安全度が向上(12時間あたり降雨量がH30豪雨を超えた**R6.5.28降雨でも被害なし**)



■ 雨水貯留施設や設備の設置【岡山市】

・設置補助申請件数は**14件(R5)⇒42件(R6)**へ増加しており、貯水容量は約**5400m³**
 ・公共施設における設置完了事例：
 (浦安芳泉認定こども園、北長瀬未来ふれあい総合公園、岡山芸術創造劇場「ハレノワ」、岡山市役所新庁舎)
 ・岡山市中央学校区公民館、幡多幼稚園に雨水貯留タンク設置
 ・旭川、百聞川分派部分周辺**地下貯留施設新設**



■ 雨水幹線の新設【岡山市】

・岡山市浸水対策行動計画に基づく計画的な整備により**工区の新設・運用、岡南ポンプの耐震化・耐水化完了**

高梁川水系

■ 水田の貯留機能を活用した田んぼダムの普及・啓発【倉敷市】

・R1年度に新潟大学と連携し、田んぼダムの実証実験・効果把握
 ・R2年度より田んぼダムの取組に対する支援・普及啓発を進め、取組実施状況が約**37ha、18,500t(R5)⇒約40ha、20,000t(R6)**へ増加



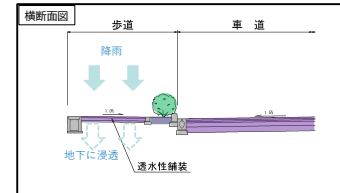
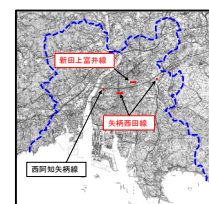
■ 下水道終末処理場・ポンプ場の耐水化【倉敷市】

・倉敷市下水道耐水化計画に基づき、**R8年度までに耐水化施設を3⇒18箇所**へ増加する予定



■ 透水性舗装を用いた歩道の整備【倉敷市】

・H27年度より都市計画道路の整備で随時実施しており、整備実施状況は、約**9,200m²(R5)⇒約9,800m²(R6)**へ増加



■ 開発行為等の雨水排水計画の協議義務化【倉敷市】

・R4年度からの協議実績と雨水抑制量が、累計**26件、約3,400m³(R5)⇒累計47件、約6,700m³(R6)**へ増加

■ 排水ポンプの設置【井原市、笠岡市】

・井原市：与井、梶江排水ポンプを**新設**
 ・笠岡市：排水ポンプの設置完了

■ 治水協定に基づく事前放流の実施【中国電力】

・新成羽川ダムにおいて事前放流を**3ケース実施、最大確保容量は6,161千m³/s**(参考R5実績：1ケース、17,168千m³/s)

岡山三川全域で実施された取組

■ 森林整備による洪水緩和機能の適切な発揮【森林整備センター】

・R3年度より水源林造成事業地において森林整備を継続的に実施：
 吉井川：R6年度は**50ha実施**(参考R5年度：110ha)
 旭川：R6年度は**80ha実施**(参考R5年度：100ha)
 高梁川：R6年度は**50ha実施**(参考R5年度：90ha)

■ 土砂流出対策、治山施設等の整備【岡山森林管理署】

・吉井川：R6年度は**山腹工2カ所整備**(R7年度は溪間工2基、山腹工2カ所計画)
 ・旭川：R6年度は本数調整伐**1カ所**(R7年度は1カ所計画)
 ・高梁川：R6未実施、R7計画なし

流域治水の具体的な取組 ～R6年度実施した取組・完了・新たに追加した取組～

被害対象を減少させるための対策

岡山三川全域で実施された取組

R6年度に**実施**・**完了**・**新たに追加した取組**

- 立地適正化計画に基づく浸水リスクを考慮したまちづくりの推進
【岡山市、津山市、備前市、赤磐市、倉敷市、総社市、高梁市、新見市、矢掛町、笠岡市】
 - ・岡山市：浸水リスクを考慮した市役所新庁舎の整備
 - ・赤磐市：立地適正化計画策定済み
 - ・倉敷市：土地区画整理事業による低地部分の地盤高嵩上げ(R3～R13)

- 浸水リスクを考慮した立地適正化計画策定の検討
【鏡野町、真庭市、浅口市、早島町】

被害の軽減、早期の復旧・復興のための対策

吉井川水系

■ 市民向け土嚢の配布【岡山市】

- ・R6年度は、**36,050袋、1,803世帯**に対して配布
(参考R5年度:50,749袋、2,537世帯)
- ・吉井川:(東区)平均73世帯
- ・旭川:(北区)平均84世帯、(中区)152世帯、(南区)142世帯



岡山三川全域で実施された取組

■ 防災訓練の実施・避難体制の強化

【勝央町、岡山県、福山市、庄原市、総社市、高梁市】

- ・勝央町:隔年10、11月に実施
- ・岡山県:「岡山県水防技術講習会」、水防団員など受講者が**15名(R5)⇒21名(R6)へ増加**
- ・福山市:小中学校 30校で実施、市職員によるタイムラインに基づく実践的な訓練も実施
- ・庄原市:福祉避難所との協定締結数が**9施設(R5)⇒11施設(R6)へ増加**
- ・総社市:市内全15小学校区で計16回
- ・高梁市:AR技術を活用した浸水疑似体験(学校2校57名、自主防災組織など17回、700名)
- ・笠岡市:市内企業と災害協定締結



■ 防災知識の普及啓発による地域防災力の向上

【岡山県、井原市、庄原市、玉野市、瀬戸内市、浅口市、矢掛町】

- ・岡山県:おかやま備災手帳を小中高生に配布。
SNS等さまざまな媒体で普及啓発
- ・井原市:出前講座8回、計310名が参加
- ・庄原市:出前講座実施団体数が**13団体(R5)⇒18団体(R6)へ増加**
- ・玉野市:出前講座38回、計1146名参加
- ・瀬戸内市:住民主体での避難所運営に関する研修等
- ・浅口市:自主防災組織リーダー育成講座
- ・矢掛町:地区防災計画作成・啓発
- ・笠岡市:団員募集QRコードチラシ作成



旭川水系

■ 職員専用参集システムを使用した職員連絡システムの構築【吉備中央町】

- ・水防体制整備の際、職員を適切かつ迅速に配置させるため、**公共職員専用参集システム「すぐ参集」**を導入



■ 防災情報伝達システムの整備・周知

【岡山市、瀬戸内市、津山市、吉備中央町、新見市、総社市】

- ・岡山市:WEB版ハザードマップを作成し、**R5より運用開始**
- ・瀬戸内市:避難情報等の迅速な伝達のために防災アプリや**屋外放送**等の活用
- ・津山市:防災行政無線未設置の一般住宅へ防災ラジオの販売促進、災害情報メールの普及率が**8.69%(H30)⇒10%(R6)へ増加**
- ・新見市:警報等発令情報や避難所の情報等を確認できる公式スマホアプリ「**新見まちなび**」に、**ダムの放流情報を追加**
- ・総社市:災害発生時の情報共有システムの整備、雨量や水位、避難所の状況等をウェブサイトで確認できる



■ 助成制度を活用した止水板設置の促進

【岡山市、福山市】

- ・岡山市:止水板設置に要する費用の一部を補助しており、申請件数が**2件(R4)⇒2件、累計31件(R5)へ増加**
- ・福山市:申請件数は**3件**
(ただし高梁川流域外)



高梁川水系

■ 防災拠点における拠点施設の整備【倉敷市】

- ・まびふれあい公園の整備が完了、令和6年7月3日開園
- ・船穂町柳井原地区の水防センターの整備完了

■ 防災マップの更新【庄原市】

- ・公開型GIS上で中小河川の浸水想定区域を反映した、より詳細で分かりやすい防災マップを公開

■ 災害リスク早期把握のための監視設備整備【総社市、広島県】

- ・総社市:河川監視ライブカメラ整備(高梁川1箇所、笹瀬川支流1箇所)
- ・広島県:**累計設置数が3箇所(R5)⇒4箇所(R6)へ増加**

■ 個別避難計画の策定支援【庄原市、勝央町、倉敷市】

- ・庄原市:要配慮者利用施設の避難確保計画の作成促進のため、**未作成施設に対し指導、助言**を実施
- ・勝央町:自主防災組織の各常会長に対し、**基礎知識等**の説明会を実施
- ・倉敷市:**避難行動要支援者**の方について**個別避難計画**を作成(累計1,829名に対し作成)



流域治水の広報に関する取組

■ 中国電力における住民への流域治水に関する広報【中国電力】

- ・住民の流域治水に関する理解促進のため、R2より継続的に流域治水に関する広報を実施。R6年度は**設備見学会を1回、写真展を6回開催**

■ 軽部川の流域治水 清音軽部地区の水害対策状況報告会【総社市】

- ・内水氾濫被害軽減に向けた取組を地元住民等流域関係者で継続的に共有

■ 流域治水に関するシンポジウムの開催【広島県】

- ・流域治水の認知度向上のため、住民・企業を主な対象として開催

